

「方眼上の記憶」が得意になるために（１）

そもそも「方眼上の記憶」が苦手なお子さまは、なぜ記憶することが苦手なのでしょう。その主な原因をご紹介します。

①集中できていない

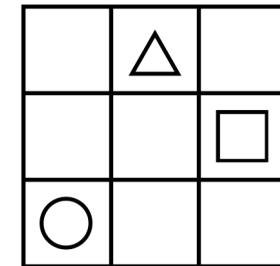
大人でも、集中をコントロールするというのは難しいことです。当然、お子さまにとってもそれは同じ。特に、幼児期は、集中することに慣れていないお子さまが多くいます。しかし、入試では集中力が不可欠なため、集中力を鍛えることが大切です。幼児期に集中力を高める方法には、指先を使った遊び、規則正しい生活、習い事、適度な運動、整った環境など、様々なアプローチが考えられます。集中力は一朝一夕で鍛えられる力ではありませんので、コツコツトレーニングを積み重ねるようにしましょう。

②全体だけを見ている

「方眼上の記憶」の問題に取り組むとき、全体だけを見ていて、1つ1つの場所を覚えられていないことがあります。全体だけをぼやっと見えていても、細かい位置を記憶することはできません。

③部分だけを見ている

②とは反対に、1つ1つを細かく見すぎているお子さまも、位置を覚えられないことが多いです。例えば、右のような問題で、「丸は左から1番目の上から3番目、三角は・・・」というように覚えようとすると、情報量が多くなって、結局ほとんど覚えられないケースがあります。



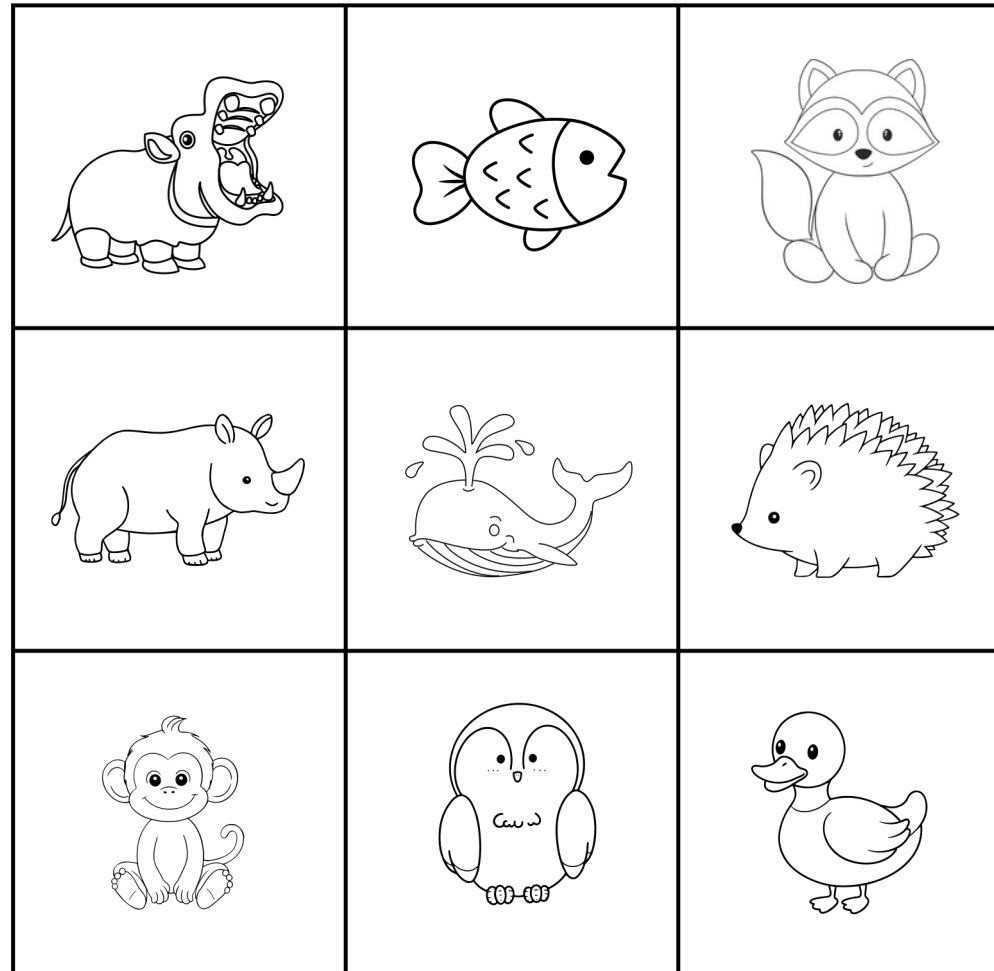
④「位置」の理解が不十分

「方眼上の記憶」の問題では、「位置（右から何番目など）」を理解していることも大切です。「位置」を理解するには座標的な考え方が必要になるので、理解するのに時間がかかるお子さまもいます。この場合、先に「位置」の問題になれるようにしましょう。

⑤練習が不十分

どの問題についても言えることですが、問題が解けるようになるためには、練習をすることも大切です。特に、「方眼上の記憶」は何度も練習することで記憶力向上のトレーニングにもなりますので、本問題集を活用して繰り返し練習をしてみてください。

問題15 絵をよく見て覚えましょう。（30秒）次のページを開けましょう。



前のページで丸のところにあった果物は何ですか。右から選び、丸をつけましょう。

